



■発行年月日/2014年7月1日 ■発行/独立行政法人国立病院機構千葉医療センター ■発行責任者/院長 増田政久 ■編集者/副院長 杉浦信之  
〒260-8606 千葉市中央区椿森4-1-2 Tel 043-251-5311 Fax 043-255-1675 http://www.hosp.go.jp/~chiba/



朝焼け

病院の窓から撮影

撮影：前統括診療部長 石毛尚起  
(現下志津病院院長)



### 高齢化社会の 到来と病院の役割

院長 増田政久

沖縄では梅雨明け宣言がなされ夏の訪れを感じさせる季節になりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

さて6月18日、「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」という長たらしい名称の法律が参議院を可決通過しました。急速に進む高齢化社会を背景に社会保障関係費が伸びていく状況下で社会保障制度を持続可能なものにするために必要な法整備を行えるとしたもの

で、医療に関していえば都道府県ごとに医療の提供体制を計画し、県内の2次医療圏(この地域で言えば千葉市)単位でその体制を確保する。具体的には病床を4つの機能(高度急性期、急性期、回復期、慢性期)に分け、圏内でそれぞれの機能を担う病床の必要数を算出して各施設の病床を調整するというものです。

医療機関の役割分担が鮮明にされ1つの病院で初診から退院、その後のfollow upもという従来の形が消え、「地域で診る」という効率化を求めた体制になります。時代の要請とはいえ、今まで目指してきた地域の患者さんとの信頼関係 (Building trust) が希薄にならないよう気を配りたいと思います。

Y  
A  
H  
A  
R  
O  
N  
(四)  
R  
I

新任挨拶	2~3
新臨床研修医紹介	3~4
連携医院紹介 / 地域医療連携室だより	5
診療トピックス④	6
リハビリテーション科紹介 / 病棟・外来紹介	7
ANECDOTA ㊦ 隠れた史実	8
62期生入学式 / 学生フォーラム参加 / 看護の日	9
永年勤続表彰伝達式	10~11
市民健康セミナー / 編集後記	11
外来診療担当医師表	11~12

主  
な  
行  
事  
予  
定

- 7/ 4 千葉県下看護学生体育大会
- 7/11 千葉県下国立病院定例連合研究会
- 7/21 トトロの夏祭り
- 7/24 第136回市民健康セミナー
- 7/26 平成27年度関東信越グループ  
採用試験(看護職員)
- 9/25 第137回市民健康セミナー

# 新任挨拶



## 新任のごあいさつ

病棟管理部長 森嶋 友一

4月1日付をもちまして病棟管理部長を拝命しました。退官された整形外科永瀬先生の後任となります。

今年は4月に診療報酬改定があり、2025年問題が大きくクローズアップされました。医療を取り巻く環境が劇的に変わった年として後年振り返られるようになるのではないのでしょうか？急性期病院としては、「入院患者さんの診療に重点を置き、地域連携を密にし、入院患者さんは在宅へ、外来患者さんは地域の開業の先生へ」というのが今後の流れになることが予想されます。そうはいつても、一朝一夕に変わるものではありません。地域の先生方との交流を

密にし、システム作りをしていかなければなりません。長く通われている患者さんの理解も得なければなりません。こういった課題に対して、病棟部長としてどう取り組んだらよいのか、今後一つ一つ答えを出していきたいと考えております。

引き続き外科医長は併任のままです。地域医療の中心として多くの手術を行っていかねばなりません。待機手術はもちろん、緊急手術も可能な限り対応していく所存であります。よりいっそうクオリティの高い外科治療を提供できるよう努力いたします。

最後に、10年以上にわたって永瀬先生が司会をされた市民健康セミナーを4月から引き継ぎました。月1回、市民の皆様へアップデートな話題をお届けします。聞き逃しても、講演資料を外来や図書室等にしばらくの間置っておきますので、どうぞご利用ください。

皆様のご指導ご協力をお願い申し上げます。



## ごあいさつ

事務部長 三井 光義

平成26年4月1日付で事務部長に着任いたしました三井光義と申します。

前任勤務地は、現在放送中のNHK朝の連続テレビ小説「花子とアン」の舞台となっている山梨県甲府市にある国立病院機構甲府病院です。千葉医療センターの所在する千葉市との共通点は、県庁所在地であること、市内の医療機関（病院）の数が多なことなどがあります。しかし政令都市である千葉市は、日本で13番目に多くの人口（千葉市約96万人、甲府市約20万人）を抱える大都市であり、医療を取り巻く環境も大きく違うと肌で感じている

ところ です。

当センターは、歴史のある国立千葉病院から国立病院機構千葉医療センターに名称変更、地域がん診療連携拠点病院の認定、さらに地域医療支援病院の名称使用承認、そして全面建替の新病院へと着々と進化を辿っており、こうした流れの中で事務部長として勤務するのは、身の引き締まる思いであり、また、大きな誇りと喜びにも満ちております。今後予定されている医療提供体制の改革の中で、安定した病院運営を病院理念[信頼される医療を築く (Building Trust)]により、\*「こびっと」取り組んでいく所存でありますのでよろしくお願いいたします。

\*「こびっと」は、山梨ことばで「しっかりしなさい」、「気を入れてやれ（気を入れなさい）」という意味のことば。NHK朝の連続テレビ小説「花子とアン」の中で使用されていることば。



## 新任のごあいさつ

看護部長 小野瀬 友子

4月1日付で村山医療センターより配置換えでまいりました。

千葉医療センターは職員の皆さんがとても優しく、このような職場で仕事をさせていただけることに感謝しております。「仕事は楽しく前向きに、そして発想豊かに」をモットーに努力する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、当センターの平成26年度病院目標は「2025年を見据えた医療法と診療報酬の改定に耐える地域医療支援とがん診療拠点たる病院の構築を目指す」です。医療提供

体制改革の具体案が示され、各病院における地域との連携や機能分担など、もはや変化についていくのでは遅く新たな価値を生んでいくことが求められていると実感する毎日です。

地域の皆様のご要望に応えていくために看護部として貢献できるよう、今為すべき事を見極めながら実行性のある仕事をして行きたいと思っております。

看護部においては、看護職員のワークライフバランスを踏まえた働きやすい職場づくりを基盤に、1人ひとりの成長に合わせたキャリア開発支援とチーム医療の要となり得る人材育成を推進し、患者さんの満足が職員の満足につながるような看護実践により、共に成長していけることを目指してきたいと思っております。



## 新任挨拶

企画課長 **石橋 文和**

4月1日付で千葉東病院から異動してまいりました、石橋と申します。

どうぞ宜しくお願い致します。

振り返りますと今回の異動で、10ヶ所目の勤務となりました。当院での勤務は2回目となり、前は平成8年4月

から2年半の間、医事課の係長としてお世話になりました。当時は設備も古く、患者さんの案内や入院費の計算、レセプトの作成等に、日々追われていた事を思い出します。

新しくなった千葉医療センターに赴任して思うことは、当院の理念でもあります、信頼される医療を築く(Building Trust) を実践していくために、事務として出来ることを着実に実施していきたいということです。

経験を生かし頑張りますので、皆様のご指導とご協力をお願い致します。



## 新任ごあいさつ

副看護部長 **田中 且子**

4月1日付で、国立国際医療研究センター国府台病院より副看護部長

昇任で参りました田中と申します。

千葉医療センターへは、平成6年9月から17年3月まで勤務していたこともあり、着任と同時に以前お世話になった懐かしい方々との再会を果たすことができました。また、当時看護学生や新人看護師だった方たちが副看護師長や中堅看護師として活躍している姿を目の当たりにし、頼もしく感じると同時に月日の流れを感じまし

た。私自身は、建物も新しくなり、また職責も変わり、毎日戸惑いながらもとても新鮮な気持ちであります。

千葉医療センターに赴任して感じたことは、患者さんに最善の医療を提供するために、職員がお互いを尊重しあい、各々が自分の役割を果たしているということでした。これは、10年前と変わらない職場の風土であり、「信頼される医療を築く」を理念とする千葉医療センターの良いところであると思います。

私も千葉医療センターの一員として、看護の立場から、患者さんが安心して療養できる環境、看護職員がいきいきと働ける環境、看護学生が自分の描く看護師像に近づき、看護の喜びを感じられる実習環境づくりに努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



## 新任挨拶

教育主事 **横山 ひろみ**

この度、西埼玉中央病院附属看護学校から昇任でまいりました横山と

申します。

看護学校は、この学校で3校目になります。今までは埼玉県内に通勤していましたが、今回初めて千葉県への転勤となりました。

通勤途中のモノレールから眺める千葉公園は、春は桜、6月になるとハスの花が咲きはじめ、これから巡ってくる

季節にあわせてどのような変化が見られるのかなと楽しみながら通勤をしています。

千葉医療センター附属千葉看護学校は、2年前に創立60周年を迎え、多くの卒業生を送り出してきた歴史ある学校と伺っております。そのような学校での学習が、主体的に行えるように、また「看護は楽しいな」と思えるような経験ができるように、学生の学習を支援したいと思います。そして、学生と共に学ぶ姿勢を大切にしながら自らも成長して参りたいと思っております。

千葉医療センターの臨床の皆様と連携をとりながら、学習環境を整えていきたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

## 新臨床研修医紹介



**大迫 鑑顕**

今年度より初期研修医として千葉大学協力型プログラムの一環でお世話になります。

出身は鹿児島で大学から千葉に来ました。入職以降、数々ご迷惑をおかけ

しているかと思いますが、皆様の優しさに救われております。

これからも教えていただく機会の方が多いかと思いますが、出来る限り皆様の力になれるよう頑張ります。

どうぞよろしくお願いいたします。



### 笹部 真亜沙

千葉大学協力型プログラムで1年間お世話になります。笹部真亜沙です。

先生方やスタッフの方々、患者さんのお蔭で、研修が始まってから2か月間、充実した日々を過ごせました。

ご迷惑をかける事も多々ありますが、一人前の医師に一歩一歩近づけるように頑張りたいと思います。

どうぞよろしくお願い致します。



### 鉄林 諭慧

今年4月より初期臨床研修医としてお世話になっております。

戸惑うことばかりですが、先生方及びスタッフの皆様のご指導のおかげで日々多くのことを学ばせて頂いております。これより続く医師としての人生を、この素晴らしい環境にて始めさせて頂けたことを幸せに思います。

短い期間ではありますが、よろしくお願い致します。



### 吉崎 智子

今年4月より初期臨床研修医としてお世話になっております吉崎智子と申します。

先生方の御指導や周りの方々に助けて頂き、研修生活が支えられていることを日々感じております。できない事はばかりで焦る毎日ですが、1つずつ解決して、学んだ事を少しでも多く還元していけたらと思います。どうぞ宜しくお願いします。



### 大塚 耕太郎

今年度より2年間、研修医としてお世話になっております大塚耕太郎と申します。まだ右も左も分からない状態ではありますが、先生やスタッフの方々、そして患者さんの優しさに支えられながら努力しています。最近

は、少しずつ自分でできることが増え、やりがいを感じる一方で、自分の行ったことに対する責任というもの、強く実感しています。

今後とも、どうぞよろしくお願い致します。



### 金子 ひより

初期研修医1年目の金子と申します。4月からの2か月間は私自身の未熟さを反省する毎日でしたが、先生方、職員の皆様

の優しく熱心なご指導のお蔭で多くのことを学ばせていただき、大変ありがたく思っています。恵まれた環境に感謝しながら、日々研修に励んで参りたいです。

至らない点ばかりですがよろしくお願い致します。



### 松本 寛樹

初期研修医1年の松本です。基幹型で2年間お世話になります。

2ヶ月が過ぎ、病院にも慣れた頃と思いきや、麻酔科研修でほぼ手術室で過ごしていたため、病棟での業務についていけずスタッフの方々に大変迷惑をおかけしております。少しでも早く貢献できるように日々努力していきます。

未熟で至らないことも多々ありますが、ご指導よろしくお願い致します。



### 仲村 あずさ

今年度より基幹型臨床研修医として2年間お世話になります。東京女子医科大学卒業の仲村あずさと申します。出身は千葉県です。

研修を始めて数ヶ月が経過しましたが、日々指導医の先生方や患者さんに支えられながら研修しており、多くの方に感謝の毎日です。

これからも患者さんに寄り添えるような医師を目指して頑張りますので、宜しくお願い致します。



### 小泉 信太郎

研修医1年目の小泉信太郎と申します。私は基幹型での採用ですので今後2年間研修させていただきます。

研修が始まり早2ヶ月が過ぎました。

右も左も分からない状態でしたが、指導医の先生方やコメディカルの方々に指導していただき日々研修させていただいております。

今後ともよろしくお願い致します。



### 菱谷 崇寿

研修医1年目の菱谷崇寿と申します。今年度から2年間お世話になります。

研修が始まり、まだ2ヶ月しか経っておりませんが、同期、先輩方、先生方をはじめ多くのスタッフの方々、皆さん親切でこの病院を選んだで良かったと感じております。

今後も引き続きご指導よろしくお願い致します。



### 水町 遼矢

今年度より千葉大学協力型プログラムで初期臨床研修医として1年間お世話になります水町遼矢と申します。

仕事を始めてまだまだできないことばかりですが、先生方の指導やサポートで少しずつ成長していくことができればと思っています。

これからもよろしくお願い致します。

## 連携医院紹介

### ひろ内科クリニック

千葉市花見川区天戸町 1467-7

院長 鈴木 広和 ☎ 043-216-2300

当クリニックは平成26年5月12日に開院したばかりです。

国立病院機構千葉医療センターでは総合内科・消化器内科で勉強させて頂きました。杉浦副院長先生はじめ、多くの先生方にお世話になり今日を迎えております。

当院は内科・消化器内科を標榜しており、一般内科に加え腹部エコー、上部内視鏡検査を行っております。血算・HbA1Cの院内測定も可能なため、糖尿病をはじめとした

生活習慣病の患者さんも多く来院されています。地域に根ざしたアットホームなクリニックを目指し診療に当たっています。

よりよい病診連携が図れるよう、当院でフォローできる患者さんは可能な限り拝見させていただきますので、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、国立病院機構千葉医療センターの益々のご発展と皆様のご健康をお祈りいたします。



## 地域医療連携室だより

### ～地域の医療機関の皆様へ～

#### 高性能X線骨密度測定装置導入のお知らせ

日本は世界一の高齢化社会で、骨粗鬆症患者は現時点で1100万人と推測され、今後も増加傾向にあります。そのような状況で、骨折して寝たきりになる人の急激な増加が懸念されており、正確な骨密度測定による骨粗鬆症患者の早期発見、早期治療並びに予防が必要とされています。

骨粗鬆症では椎体・前腕骨及び大腿骨近位部などの骨折が生じやすく、その対策が医療のみならず社会的にも重要な課題となっています。骨粗鬆症診断にはDXA(dual-energy X-ray absorptiometry)を用いて、腰椎と大腿骨近位部の両者を測定することが望ましいとされています。また、腰椎DXAでは前後方向を測定し、大腿骨近位部DXAでは、頸部、転子部、全骨(total hip:頸部、転子部、骨幹部の3領域)を測定します。骨密度の測定部位について、日本では原則的には腰椎骨密度ですが、国際的には大腿骨近位部骨密度が用いられています。

当院でも従来からの骨粗鬆症患者に加えて、潜在的な脊椎骨折の存在を早期に発見する必要があり、病院機能として最適な医療を提供するためには腰椎、大腿骨近位部での測定が可能である最新の装置を、平成26年3月に導入いたしました。検査は寝たままの状態で約5分～15分で行え、痛みもなく、また、被曝量の平均値は標準胸部X線撮影と

測定装置の全景です



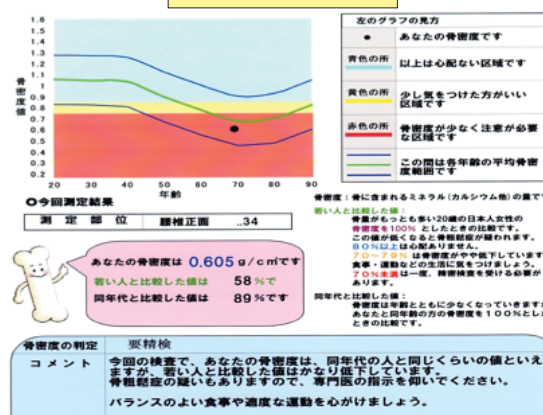
ほぼ同じで撮影による身体への影響はありません(妊娠中及び妊娠の可能性のある方は受けることができません)。

当院では、地域医療連携の観点として、地域の先生方へ、この最新の骨密度測定装置を共同利用してご活用いただければと考えております。機器のみの提供となるため、ご依頼元の医療機関にて、「診察料」及び「骨塩定量撮影料」を算定していただき、当院から、検査委託料をご依頼元医療機関に請求させていただく運用となります。

現在、地域医療連携室では、地域の先生方との病診連携のより一層の強化、ご要望に少しでもお応えできるよう、医師・幹部職員をはじめ、地域医療連携室の職員と訪問活動を行っており、訪問の折にはご説明させていただきたいと考えております。また、委託検査をご希望される医療機関の先生方につきましては、地域医療連携室にご一報いただければ、即時対応させていただきます(ご連絡お待ちしております)。

今後とも、引き続き地域医療へ貢献するため、様々な取り組みを行いたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

#### 骨密度測定結果



### 診療情報提供書について(お願い)

現在、連携室を通してご依頼いただく診療科のうち、循環器内科、心臓血管外科及び呼吸器外科については、紹介

いただく患者さんの症状を把握するため、診療情報提供書を事前にFAXをいただいております。地域の医療機関の先生方におかれましては、ご多忙の折誠に恐縮でございますがご協力の程よろしくお願い申し上げます。

# — 皮ふガンのおはなし —

### 【皮ふガンとは】

皮ふガンと一口に言っても、様々な種類があります。皮ふガンの代表格は有棘細胞癌（ゆうきょくさいぼうがん）ですが、ほくろのガンとして有名な悪性黒色腫（あくせいこくしょくしゅ；メラノーマ）や基底細胞癌（きていさいぼうがん）など、たくさんの種類があります。

### 【診断】

皮ふガンの診断は、まずは肉眼で見ての診断ですが、外来診察の際は必要に応じてダーモスコピー（図1）で病変部を拡大して観察します。それでも鑑別が難しい場合は、局所麻酔をして一部分あるいは全部を切除し、組織検査をすることがあります（皮ふ生検）。

### 【早期発見を！】

皮ふガンかも？と思ったら、まずは写真をとり大きさ（縦×横×高さ）を確認しておき、きっかけや期間、変化などと共に記録しておいて受診の際にお伝えいただくのもよいでしょう。あまりいじらない方がよいことが多いです。

早期発見のポイントを以下に挙げます。

- ★ 有棘細胞癌に発展する前の日光角化症の段階で発見すれば、外用薬（イミキモド等）での治療も可能です（多くは数ミリの生検で診断確定後に外用開始します）。顔の赤みやかさぶたが通常の治療で数カ月以上も治りづらく繰り返している場合は、日光角化症の可能性ががあります。
- ★ 顔の傷が治らない場合や、顔（特に鼻の周り）に灰～黒色でロウソクの口のような光沢がある場合は、基底細胞癌の可能性ががあります。このガンは転移の心配はほとんどなく、通常、全摘出できれば抗がん剤治療などは不要です。しかし、長年放置されると深く入り込む性質があるため骨へ浸潤したり、眼球を摘出したしなくてはならなくなる場合もあり、早めの診断が大事です。
- ★ 陰部の赤み・かゆみについては、受診をためらって市販薬等で長く自己治療されているケースが多いです。湿疹が治りづらく繰り返す場合や、カンジダ症・白癬などのカビによる症状の場合が多いのですが、乳房外パジェット病の可能性もあります。この病気の進行はゆっくりですが、進行すれば転移することがあります。赤みが厚みをもったり、腫瘍（塊）をつくったりする時は早急な受診を要します。植皮が必要になったり尿



【図1】 ダーモスコピー

道や腫部などへ入ったりすることがあり、術後の生活に関わる場合もありますので、治りづらい赤みは早めに受診されることをお勧め致します。

- ★ ほくろのガンを心配して受診されるなかには、脂漏性角化症（老人性いぼ）や色素性母斑（一般的なほくろ）、青色母斑などの場合もあります。爪が黒い場合は、ほくろや爪下の出血・爪水虫（爪白癬）の場合も多いですが、同時にまわりの皮膚にも黒いしみがある場合はほくろのガンの可能性があり要注意です。

### 【予防はできる？】

まずは、紫外線に対する対策をすることです。オゾン層破壊などの影響もありますので、自分たちが子供のころはこうしていたから…とか、男は日焼け止めをつけないものだとかの固定観念にとらわれないことです。耳の上部も日焼けをしやすいため、帽子や日焼け止めを使用するなどの対策をしてみてください。

また、足の裏のほくろ・しみや皮ふガンを考える部位は、いじらないようにすることも重要です（石鹸の泡で洗う程度は問題ありません）。時々悪性黒色腫を軽石でこすってしまう方がいらっしゃいますが、増悪するきっかけになりますので要注意です。

皮ふは目に見えるものですので御自身でよく見ていただくのが大事ですが、一人で思い悩んでいらっしゃる場合、逆に全く気にしていらっしゃる場合、御本人には見えない場合もありますので御家族・お友達だからこそ指摘してあげられる場合が多くあります。

皮ふガンを進行させないように、皆で気をつけていきましょう。  
（皮膚科医長 大久保 倫代）

## リハビリテーション科紹介

理学療法士長 荻原 朱摩子

当院のリハビリテーション科は、非常勤リハビリテーション医師1名、理学療法士7名、作業療法士4名、言語聴覚士1名のスタッフで、2階売店の奥にある広い訓練室で、日々、患者さんと訓練を行っております。

ところで、「リハビリテーション」と一言と言っても、部門としては、理学療法・作業療法・言語療法に分かれています。理学療法は起きる・座る・立ち上がるなどの動作の訓練、作業療法は着替えやトイレ・入浴動作などの日常生活動作の訓練、言語療法は食事の飲み込みや言葉の訓練を担当しています。

訓練の対象は主に入院されている患者さんで、骨折などのけがや変形性関節症、脊髄の病気、脳梗塞などの脳の病気、肺炎などで安静を余儀なくされた後全身の体力低下などで身体が思うように動けなくなってしまう、主治医が「リハビリテーションが必要」と判断された方です。

患者さんによって、訓練開始時に私たちが病棟に伺って、少しずつ身体を動かすことから始める場合と、訓練初日から訓練室に来ていただく場合があります。

動きづらくなった身体を、また少しでも自由に動かせる



ように、主治医、各病棟の看護師、薬剤師、検査技師、栄養士等、他職種との連携や、退院後の生活について退院調整担当看護師、ソーシャルワーカーとも情報を共有しています。

より生活しやすい動作の獲得を目指して訓練を行い、この病院でリハビリテーションを受けて良かったと感じていただけるよう、スタッフ一同、頑張っております。

最後に、訓練室の入口には、かわいいお魚たちが元気に泳いでいます。

ぜひ、一度、ご覧になっていただきたいです。

## 病棟・外来紹介

### 5階東病棟

千葉医療センターの5階東病棟について紹介させていただきます。わたしたちが勤務しております5階東病棟は人体の生命機能の中枢を担う循環や呼吸に関係した診療科を担当する病棟です。診療科は呼吸器内科・呼吸器外科・心臓血管外科・循環器内科の4科で、入院される患者さんの疾患もさまざまです。各科の医師は個性豊かで、熱い思いをもって診療・治療に取り組んでいます。看護スタッフは看護師長をはじめとし、副看護師長2名、看護師30名、業務技術員2名の35名です。若いパワーであふれ、ひまわりのような笑顔がたくさんある病棟です。

入院された患者さんは何を望みますか。わたしたちは患者さんに安心・安全な医療・看護を提供し、患者さんとのよりよい関係が築けることを目標としています。65歳以上の人口が3,000万人を越え、診療報酬の改定と、更に現場に医療の質の向上が求められています。病院での主役は患者さんです。患者さんが何を望んでいるか、患者さんやご家族にとって最適な方法は何か。わたしたちはいつも悩みながら考えつづけています。「患者さんの話を聴こう。患者さんと話し合おう。」これはいつも病棟で飛び交う言葉です。話というのは言語的なコミュニケーションだけでなく、患者さんの身体から発せられる



サインを見逃さないということも含まれます。そのためわたしたちは日々勉強に努め、お互いのコミュニケーションも大切にしています。治療への不安や退院後の生活などについてお困りのことがあれば医師と看護師、そして他職種のスタッフと連携し、医療チームとして患者さんの問題解決にあたっています。

もし当病棟に入院されましたら、正直なご意見をお聞かせください。わたしたちはこれからも成長し、共に一歩先へ進みたいと感じています。そのためには患者さんの思いに近づき、医療や看護を患者さんやご家族の立場で一緒に考えることを大切にしていきたいと思っております。

(副看護師長 村山・大橋 看護師長 小田)

# A N E C D O T A (37)

— 隠れた史実 —

元研究検査科長 高澤 博

今回から明治維新最中の旧幕府江戸医学所(医学所)から新政府(官軍)軍陣大病院(大病院)への移行推移を追いながら、我が国西洋外科とくにその初期状態の軍陣外科学の芽生え・成長を併せていく予定です。この間「戊辰戦争」が存続し、旧幕府勢と新政府(官軍)側は東西に分かれて未曾有の日本の国内戦を展開しています。戦争に近代兵器として進化した銃砲機が持ち込まれ戦傷兵の損傷内容も複雑化します。多くの「戊辰戦争」の資料が発掘公開されていますが、江戸から東京への移行期即ち幕府下江戸都市から官軍統治都市への行政機構の移行が介在し、その移行期行政構造は必ずしも詳らかではなかったが、戦後(昭和25年)偶然発掘された「鎮台府一件」(『市政裁判所始末』以後「市政裁判所」図2)で、移行期行政機構の理解に光明がさしてきました。この資料を紹介しながら図1を作成し、新政府支配の変遷、戦役の推移を基本に置き、医学所、軍陣医学を追認していきます。

鳥羽伏見の戦いで敗北した幕府側機構は、様々なかたちの幕引きをします。医学所も慶応4年3月6日(1868.3.29)までは幕府下にあったようです(東大100年史)。

また、幕府は医学所を急遽3月16日「海陸軍病院」と改称しましたが、敗北下混乱から事務手続きが頓挫し、いまだこの一次資料の発掘がなく名称のみが残ります。そんななか幕軍兵士の治療に最後まであたった医学所頭取松本良順は、医学所に鳥羽伏見戦で戦傷した傷病兵を收容して置くことに危険を感じ、今戸稱福寺(浅草北、現存)に約30名の傷病兵を移した(3月7日以前)。

4月12日頃、松本は子弟中の秀でた6人(渡辺洪基、名倉知文、三浦煥、小泉順英、山内作樂戸、太田雄寧)とともに傷病兵救助の隊を組織し、佐倉、平潟経由で会津城下「日新館」に入り傷病兵の治療、近在医師の教育にあたった(図1塗りつぶし上)。この項「会津戦争」での軍陣医療についての詳細は後述します。

松本の去った医学所は林 洞海が頭取代行し、田代基徳も閉鎖するまで病院に残り、学生は皆解散帰国した(石黒忠直「懐旧九十年」)。ここで医学所の機能は終り、終りの始まりを迎えます。しかし、幕府医学所の正確な閉鎖時期は不明です。

上野彰義隊の戦争(5月15日)の直後の同月19日には、官軍は江戸城に「鎮台府」を設置し、早速旧幕府から新政府への行政機構の速やかで円滑な転換を目指します。

そのための手法の根幹が、旧幕の支配機構である三奉行所の活用です。旧幕「町奉行所」は「市政裁判所」に、「寺社奉行所」は「寺社裁判所」に、また、「勘定奉行所」は「民政裁判所」に置き換え、幕府の行政機関を完全に接收し、旧幕役人をも活用して江戸の町を統治しようとします(図2b,c)。ただ、現在まで後2者の裁判所資料は発見されていません。鎮台府は同7月17日「東京府」設置とともに「鎮将府」(「鎮将」;東国

事務を総裁す)が設置され「鎮台府」に替わり、三条右大臣が鎮将になり、参与、弁事、判事分課(軍務、会計)が置かれ、また、東京府には知府事、判府事、権判府事が設置され、東京都への礎ができる。

さて、同6月9日(13日とも)、「医学所」「薬園」が「鎮台府」派遣の尾形力之進(阿州藩)、前田杏齋(薩摩藩医師)に引き渡されたが、旧幕側の池田多仲、月岡勝次郎に一時仮預かりとなる。同月26日には新たに「医学所」等が新政府によって再興され、前田杏齋が事務引き継ぎ、旧幕「医学所」の医学教授職であった坪井為春、島村鼎甫、石井謙道(信義)を助教授に任命復帰させ、生徒の教育に当たられた(復古記、大久保利兼)。以上の記述で、年号は旧暦を使い、一部括弧半角英数字で西暦年を付記しました。

今回は初期軍陣医学について具体的事象を挙げ、関連してウィリスが登場します。

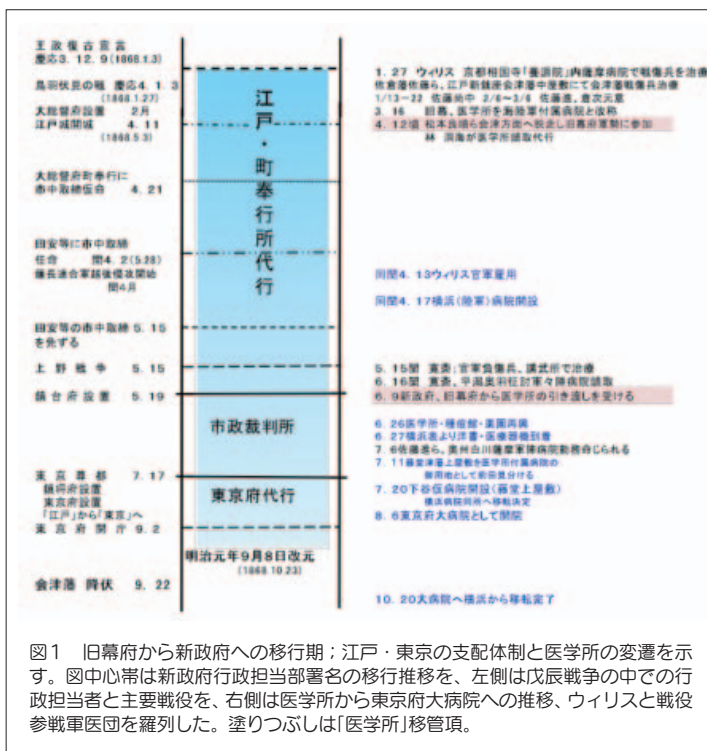


図1 旧幕府から新政府への移行期；江戸・東京の支配体制と医学所の変遷を示す。図中心帯は新政府行政担当部署名の移行推移を、左側は戊辰戦争の中での行政担当者として主要戦役を、右側は医学所から東京府大病院への推移、ウィリスと戦役参戦軍医団を羅列した。塗りつぶしは「医学所」移管項。

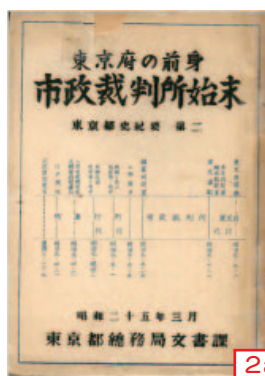
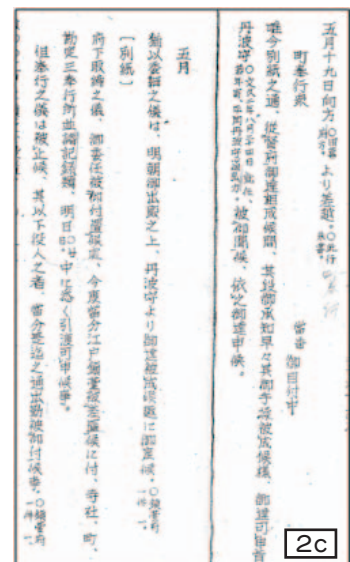
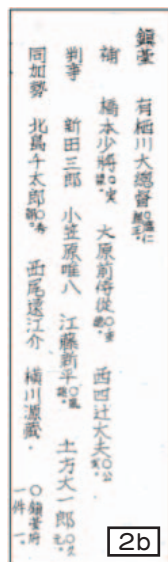


図2a: 昭和25年ガリ版刷りの「市政裁判所始末」は「鎮台府一件」として東京都文書課に永く眠っていた。2b: 東京鎮台府職員名。2c: 新旧行政機構の移行期を示す鎮台府→若年寄→目付への各奉行所施設・記録の引き渡し命令書





## 62期生の入学式を迎えて

千葉医療センター附属千葉看護学校  
副校長 齊藤 末利子

千葉医療センター附属看護学校では平成26年4月8日に穏やかな春の日差しの中入学式を挙行し、新入生82名を迎えました。入学式に臨む新入生は1人ひとりの名前を呼ばれ、学校長から『入学を許可します。』の言葉に喜びをかみしめながらも、凛とした姿がとても印象的でした。新入生宣誓では『将来、患者さんに少しでも安心して治療に臨んでもらえるような看護師になりたい。そのためには、看護の専門知識や技術を学び、個々の人格と生命を尊重し、豊かな人間性をもって、患者さんと向かうことができるようになりたい』と抱負を述べ、これからの成長を期待させるものでした。



当校の教育理念は「教学相長ず」です。教えるものと教わるものがともに学ぶという考えのもと、教員も学生も一人の人間として自己の考えをもち、互に学び合うことで成長できることを期待しています。この入学生が看護基礎教育で学んだ後、患者さんに満足いただける看護を提供できるように教育していきたいと思っています。

## 学生フォーラムに参加して

千葉医療センター附属千葉看護学校  
教員 嵯峨 美和

平成26年4月25日、メインテーマ「寄り添う看護つなげる輪と和」と題し幕張メッセ国際会議場にて第8回国立病院機構関信グループ看護学生フォーラムが行われました。

メインのシンポジウムでは「チームで生かす看護の力～患者と看護師の心をつなげる看護」と題し、4人の学生シンポジストの発表がありました。そこでの内容として「チームで治療に向き合う大切さと看護の専門性を発揮してチームに貢献する必要性」を学ぶ内容や「患者の言葉の本心はどこにあるのかを考えることが寄り添う看護である」という内容などがありました。その後の質疑応答も活発に行われ、内容の濃いシン

ポジウムとなりました。学校紹介では、当校の学生がどのような思いで学校生活に参加しているかを皆で話し合い、



内容を決めて代表者が発表しました。災害に備えて学生が各自非常食を準備していることなども発表しました。他の学校紹介も各学校の特色を生かしており、また、この機会に他校学生と話をすることで交流が生まれたようです。当校学生の感想は、進行・内容がとてもよかった、とても勉強になったという意見が多数ありました。学生間で学び合える良い機会であるこの学生フォーラムが毎年続くようにと思っています。

## 看護の日

千葉医療センター附属千葉看護学校  
教員 小林 愛子

毎年5月12日は「看護の日」。そして看護の日を含む日曜日から土曜日までの1週間が「看護週間」です。健康で安心して暮らせる社会づくりの実現を目指して、看護の心、ケアの心、助け合いの心をひろく国民に育むことを目的に日本中で「看護の日」のイベントが催されています。

千葉看護学校でも学生自治会が中心となって、病院玄関で外来にお見えになる患者さん達に「看護の日」をPRしました。まだ患者さんと接したことがない1年生はとても緊張したようですが、先輩から声のかけ方や気の配り方を教わりながら、看護の心を伝えようと一生懸命、由来を記したカードとポケットティッシュを配りました。

その後の全校集会では「語り合おう 私の看護 みんなの看護」をテーマにディスカッションを行いました。退院

後、その人らしく自律して生活する為に看護にできることは何だろう…、看護師は何故排泄の援助を不快に思わずできるのだろう…と考えました。後者の問いに対し上級生は、「排泄物は生きている証であり、患者さんの状態を知る重要な情報である」と気づくと自然に汚い・臭いと思わなくなったと語りました。

先輩や教員の発言に対して1年生が意見を述べる場面もあり、学生・教員が一体となった学年の壁を越えたディスカッションとなりました。

看護の日の活動は、命を守る看護師の責任の重さや自己の勉強不足を痛感し、もっと思考の幅を広げたい、確かな技術を身につけたいと学ぶ意欲を高め、学生の中に医療者としての看護の心が育まれるよい機会となりました。



# 永年勤続表彰伝達式

平成26年4月25日、永年勤続表彰(国立病院機構表彰)伝達式が行われました。30年表彰2名、20年表彰3名の方々に表彰状と記念品が授与されました。永年にわたり医療ならびに千葉医療センターのために貢献されてこられた方々です。

## 30年表彰

庶務班長 久保田 明  
副看護師長 大橋 富子

## 20年表彰

救急部長 丹野 裕和 看護師長 亀崎 智都江  
看護師 荻部 智子



### 永年勤続表彰

庶務班長 久保田 明

長いような、短いような30年でした。  
高校を卒業して、昭和59年4月国立療養所足利病院(現あしかがの森足利病院)

で採用となり、高崎、栃木、下総、宇都宮、平成16年4月に独立行政法人移行、さらに、成育医療、放医研重粒子医科学センター、そして平成24年10月より国立病院機構千葉医療センターで8施設目となります。

就職した昭和59年の出来事では、グリコ・森永事件(時効成立)があり、競馬ではシンボリルドルフが無敗の三冠馬(大当たり)、プロ野球では広島が日本一(今年も日本一?)、音楽では、「もしも明日が」、「涙のリクエスト」、テレビは「不良少女とよばれて」、「スクールウォーズ」等そんな時代でした。

30年間という間、働くことができたのも関わってきたたくさんの上司や仲間、職場のさまざまな皆様、そしてなにより忘れてはいけない家族に恵まれたことです。ほんとうに感謝しております。30年たって、年はとって、まだまだ未熟者です、今後ともご指導の程よろしく願いいたします。



### 永年勤続表彰を頂いて

5階東病棟 副看護師長

大橋 富子

岡山県倉敷看護専門学校を卒業して、ふるさとである千葉の旧国立千葉病院に

就職したのは30年前になります。

今では千葉医療センターと名称も変わり建物も立派になりましたが、歴史ある面影を残す建物を偲び、過ぎ去った日々をととても懐かしく感じます。

上司の方々からご指導をいただき、スタッフをはじめ出会ったたくさんの方々から多くを学ぶことができました。そして患者さんの笑顔に何度も勇気を頂きました。

生命に直接関わる仕事に携わり、その責任の重大さを実感した頃の初心を忘れずにこれまで積み上げてきた経験と、専門職として日々学ぶ姿勢を持ち続け努めていきたいと思えます。

医療は進歩しさらに高度化していきますが、看護の本質は変わることなく、一人一人の患者さんに寄り添い、支援していける看護師でありたいと思えます。患者さんやご家族が心から安心できる看護を目指していきます。



### 10年後 — 症例報告

救急部長 丹野 裕和

症例)平成36年6月22日火曜日 T氏は定年後も続けている週一回の外来診察を終えた。帰宅後突然の頭痛と左半身の脱

力あり救急要請、かけつけた救急隊はT氏の顔をみるなり国立千葉医療センターに連絡した。

病院到着時、救急部(8年前に発足 日替わりで数科の医師により構成、救急車すべてに対応する体制)の脳外科医師、石田内科部長、利光外科部長らの医師団、救急病棟からは國松副師長が集まり診察にあたった。

T氏の意識はやや混迷状態 血圧210/130 明らかな左半身の麻痺を認めた。直ちに本田副技師長により頭部CT検査施行、右被核出血の診断であった。

満床であったが星野師長の采配でICU入院となり、尾崎部長が主治医となった。翌日CTでやや血腫は増大、血腫量45mlであったため 布瀬医長の執刀で大里手術室師長らが見守るなか CTステレオ血腫ドレナージが施行された。

術後 故意か〇ク〇ラかT氏の体動激しく抑制帯がつけられたものの、第3病日には意識はほぼ回復、高階副師長らの介

助で食事が可能となり、リハビリを開始 安西士長が受け持ちとなった。

ドレナージの抜けた第4病日梅原師長の5階西病棟に転棟した。増田名誉院長、石毛名誉院長がお見舞いに現れたとき、「やっぱりアポッタか」などと言う声が聞こえた。第7病日T氏の左片麻痺はやや改善し、松浦院長の東京湾岸リハビリテーション病院転院となった。その後の消息は不明である。

考察)20年間の過去は変えられないが、10年後の未来は変えられる。

結語)10年後T氏も、ある意味この病院も健全であることが期待できる。

(記すまでもないが、T氏以外の13名の登場人物はすべて架空の人物である。)



### 永年勤続表彰を頂いて

ICU・3F 病棟

看護師長 亀崎 智都江

国立療養所東京病院に採用となり、平成20年10月より看護師長として千葉医療センターに勤務しています。平成24年に出産してからは、改

めて仕事を続けることの大変さと楽しさを感じています。

これまで続けてこられたのは、患者さん・ご家族の方々に恵まれ、自分の仕事になかなか自信の持てない私に上司・先輩をはじめとしたスタッフのあたたかい支援があり、家族の協力があつてこそだと思っています。

私が仕事をする時に心がけているのは、患者さんはもちろんスタッフにも相手の立場になり、誠実に関わることです。

千葉医療センターでは、外来での病院の引越しや電子カルテの導入、ICUでは勤務体制を2交替制に変更したり、全面的に救急外来を救急病棟で運用できるように検討したりとよい経験を積ませて頂きました。

これから患者さんが安心して入院生活が送れるよう、またスタッフにとっても楽しく働きやすい職場づくりを看護師長としていきたいと思ひます。

今後ともどうぞご指導、ご支援をお願いいたします。



## 永年勤続表彰を頂いて

7階東病棟 刈部 智子

付属の看護学校を卒業して、平成6年4月に国立療養所東埼玉病院（現在の国立病院機構東埼玉病院）で採用になり、5年目の平成10年4月より千葉医療センターで働かせて頂いております。移動してきた当時は生活も職場環境も変わり右も左も分からず、ただ日々の業務についていくことで精一杯であったことを懐かしく思い出します。その中で20年という永年勤続表彰を頂くことができたのは、病棟師長をはじめ諸先輩・周りのスタッフの方々のご協力・ご指導のおかげであると心から感謝しております。今回の表彰を励みとし、今後も千葉医療センターの看護師として信頼される安全な医療・看護を提供できるよう、日々努力を続けていきたいと思ひます。

今後ともご指導よろしくお願ひ致します。

## 市民健康セミナーの開催

当院では千葉市民の皆様には健全な生活を営んで頂くために、少しでもそのお手伝いができればと考え、8月を除く毎月「市民健康セミナー」を当院地域医療研修センターで開催しております。

### 4月～6月に行われたセミナー

4月24日(木) 「“胃”の痛む話」

講師：内視鏡室長・消化器内科 伊藤 健治

5月22日(木)

第1部 薬が誕生するまで ～治験(ちけん)ってなんだろう?～

講師：治験管理室 中野千佳子

第2部 薬を正しく使うための心得

講師：薬剤科 本郷 知世

6月26日(木) 「女性の尿失禁の話～自分だけで悩んでいませんか?～」

講師：看護部 宮園若菜・河崎育子

## 今後の予定

第4木曜日 午後2時～

会場：当院地域医療センター

7月24日(木)

「形成外科ってなあに?

～頭の先から爪の先まで」

講師：形成外科医長 輪湖 雅彦

9月25日(木)

「遺伝子診断とは?

— 出生前診断と家族性腫瘍」

講師：産婦人科医長 岡嶋 祐子

★8月は、市民健康セミナーはお休みします。

セミナーに10回参加された方には  
記念品をさしあげます。

## 検査担当医師表

診療科		月	火	水	木	金
胃内視鏡検査 (午前)		金田/菰田	田村 玲	斉藤正明	阿部朝美	伊藤健治
		里見大介		里見/高見	福富 聡	
		[豊田康義]			[豊田康義]	
大腸ファイバー(午後)		内科交替医	外科交替医	外科交替医	外科交替医	内科交替医
超音波	腹部	菰田 弘	阿部朝美	田村 玲	伊藤健治	杉浦/金田
	心臓				山田善重 <第2・4木曜日> 午前	高見 徹

## 編集後記

私は、24年間お世話になりました千葉医療センターを退任し、7月1日国立病院機構下志津病院に転任となりました。

これからは、両病院で協力してより良い医療を提供できますよう、がんばります。よろしくお願ひします。

石毛尚起

## 【編集委員名簿】

(石毛 尚起) (打矢 直記) (新井 茂)  
(伊藤 博) (田中 且子) (奥澤 武彦)  
(副編集長 三井 光義)  
(編集長 杉浦 信之)

外来診療担当医師表 “聞く” “聴く” “訊く” の対応を! 平成26年7月1日より

診療科		月	火	水	木	金	
受付時間は原則として、平日(月曜日から金曜日)の8:30から11:00まで							
内科	新患	杉浦信之 斎藤正明	杉浦信之 斎藤正明	杉浦信之 石田琢人	森泰子 田村玲(第1・3木曜日) 孤田弘(第2・4木曜日)	斎藤正明 岡澤哲也	
	再診	呼吸器内科	丸岡美貴 安田直史	西村大樹	江渡秀紀	丸岡美貴 西村大樹	江渡秀紀 安田直史
		消化器内科 (消化管、肝、胆、膵)	伊藤健治 田村玲	金田暁 大黒晶子	金田暁<予約制> 伊藤健治	篠崎勇介 西村光司	阿部朝美
		総合内科	後藤茂正 島田典生	孤田弘 石塚伸子	島田典生	後藤茂正(血液) 岡澤哲也	石田琢人 島田典生
糖尿病代謝内科	徳山宏丈 櫻井透	能重歩	櫻井透	古本英晴	三津間さつき		
神経内科	新患は紹介制・予約制						
精神・神経科	新患	山内厚史		焼田まどか		吉村政之	
	再診	海宝美和子 吉村政之	吉村政之 山田千晶(午前)	海宝美和子 山内厚史	焼田まどか	焼田まどか 山内厚史	
循環器内科	新患は紹介制 月曜日は完全予約制	高見徹 <完全予約制>	久保健一郎 受付は10時まで	宮澤一雄 受付は10時まで	高見徹 受付は10時まで	中里毅 受付は10時まで	
小児科		重田みどり	新井ひでえ	重田みどり	重田みどり	新井ひでえ	
外科・消化器外科	新患	森嶋友一 福富聡 守正浩 柳原舞	[交替医]	豊田康義(緩和ケア) 山本海介 利光靖子 石毛孔明	小林純 里見大介 高見洋司	[交替医]	
	再診	中野茂治	荒井学 中野茂治	手術日	荒井学	荒井学 中野茂治	
乳腺外科	完全予約制						
整形外科	新患	大河昭彦	[交代医]	大河昭彦	村上宏宇	[交代医]	
	再診	阿部功 村上宏宇 白井周史	手術日 受付は10時まで ※新患のみ	阿部功 佐久間詳浩 吉野謙輔	白井周史 佐久間詳浩 吉野謙輔	手術日 受付は10時まで ※新患のみ	
股・膝関節外来	完全予約制			阿部功(股関節) 14時~15時30分	白井周史(膝関節) 13時30分~15時		
形成外科		手術日	輪湖雅彦 鈴木文子	手術日	輪湖雅彦	鈴木文子	
脳神経外科		丹野裕和 尾崎裕昭	丹野裕和 布瀬善彦	石毛尚起 原彩佳	手術日	尾崎裕昭 原彩佳	
呼吸器外科		斎藤幸雄	手術日	藤野道夫	斎藤幸雄	藤野道夫	
心臓血管外科			田中英穂	増田政久		増田政久	
皮膚科	木曜日は完全予約制	大久保倫代 秋田文	大久保倫代 秋田文	大久保倫代 秋田文	角田寿之 <完全予約制>	大久保倫代 秋田文	
泌尿器科	水曜休診 金曜の受付は10時まで	佐藤直秀 川名庸子 一色真造 宮内武弥	一色真造 宮坂杏子 櫻山由利	手術日	佐藤直秀 川名庸子 櫻山由利	[交替医] 手術日 受付は10時まで	
産婦人科	火・木の受付は10時まで 婦人科新患は紹介制	中崎裕夏 計良和範 木下亜希	[交替医] 林若希 手術日 受付は10時まで ※新患のみ	岡嶋祐子 中崎裕夏 岡山佳子 計良和範	[交替医] 手術日 受付は10時まで ※新患のみ	岡嶋祐子 木下亜希 林若希 岡山佳子	
助産師外来			<完全予約制>	<完全予約制>			
眼科	新患は紹介制 再診は予約制 月・木の受付は10時まで	新井みゆき 窪田真理子 大岡恵美 受付は10時まで	根岸久也 新井みゆき 窪田真理子 大岩晶子	根岸久也 新井みゆき 大岩晶子 大岡恵美	[交替医] 手術日 受付は10時まで ※新患のみ	根岸久也 窪田真理子 大岩晶子 大岡恵美	
	頭頸部外科(耳鼻咽喉科)	新患は紹介制 再診は予約制 火曜日の受付は10時まで	渋谷真理子 外池百合恵 坂本夏海	渋谷真理子 鈴木誉 手術日 受付は10時まで ※新患のみ	[交替医] 手術日	鈴木誉 外池百合恵 坂本夏海	
放射線科	治療	酒井光弘<予約制>		酒井光弘<予約制>		酒井光弘<予約制>	
歯科口腔外科	再診は予約制	中津留誠 馬場隆緒 笠間洋樹	中津留誠 馬場隆緒 笠間洋樹	中津留誠 馬場隆緒 笠間洋樹	中津留誠 馬場隆緒 笠間洋樹	中津留誠 馬場隆緒 笠間洋樹	

専門外来	腎内科(内科)			上田志朗 <第2・4水曜日>8:30~11:00 上田希彦<第4水曜日> 宮澤一雄<第2水曜日> 13:00~15:30 完全予約制		
	不整脈外来(循環器内科)					
	ヘルニア専門外来(外科)				山本海介 13:00~15:00	
	緩和ケア外来(外科)		豊田/石田 13:30~15:30 完全予約制	豊田康義 9:30~11:00 完全予約制		
	ストーマ外来(外科)					[担当看護師] 外来診察時間内
	禁煙外来(外科)			孤田弘 13:00~ 完全予約制	守正浩 14:00~ 完全予約制	
	肛門外来(外科)	守正浩 <第1・3水曜日>14:00~16:00 高見洋司 <第2・4水曜日>14:00~16:00				
	漢方外来		永井千草 8:30~13:00 完全予約制	永井千草 8:30~13:00 完全予約制		
	性カウンセリング(総合診療室)				大川玲子 8:30~17:00 完全予約制	